



山代東小学校が文部科学大臣表彰を受賞

5月21日、市役所で、令和8年度『子供の読書活動優秀実践校』として文部科学大臣表彰を受賞した山代東小学校の表彰伝達式が行われました。これは、子どもの読書活動の推進に優れた実践を行っている学校などを文部科学省が表彰するものです。

同校では、学校図書館事務職員と担任が連携した『図書』の時間や、図書館入口へのクイズ掲示、児童による目標冊数の設定など、読書意欲を高める工夫を続けています。また、地域ボランティアによる絵本の読み語り活動や、移動図書館『ぶっくん』と連携した活動も活発で、こうした取り組みが高く評価されました。



文部科学大臣表彰を受賞し表彰伝達を受けた山代東小学校の山口浩史校長（右から2人目）と学校図書館事務職員の山口幸子さん（左から2人目）

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No.283

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。
これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

問合先 生涯学習課人権・同和教育係 (HP ☎ 23-3186)

き く

『きく』という言葉には、一般的に『聞く』と『聴く』があります。

『聞く』は、音声が自然に入ってくること。『聴く』は、自ら意識して声や音をきくこと、とされます。

他者からの大切な話。これは『聴く』を意識することがだいじです。(もちろんこれは、手話言語でも、筆談の場合でも同じです。積極的傾聴といわれます。)

『聴く』行為は『人権を保障する』という点で、重要です。それは『あなたのことをよく知りたい』というメッセージであり、たしかなコミュニケーションを育てます。

相手が安心して話せるような表情、雰囲気をごころがけましょう。腕組みしたり、難しい顔つきはよくありませんね。また、過去のことを持ち出したり、他人との比較は、せっかく開きかけた心のドアを閉めてしまいます。

うなずきながら聴きましょう。《聴いてますよ。共感していますよ》と伝えましょう。

相手と同じ気持ちにはなれませんが、気持ちを理解したり、想像したりはできるでしょう。うれしい話にはともに喜び、悲しい話にはともに悲しみ…。『同感』よりも『共感』を胸の内に。

そしてなにより『秘密を守る』。相手が大事な話をしてくれたことは信頼の証でもあります。秘密は厳守しなければ。

しかし、《命にかかわること》や《多方面からのサポートの必要》があるときには、本人の承諾の上に専門機関と話し合うこともありでしょう。

他者との関係を適度に保ち、お互いの諸権利を尊重するため『聴く』ことをいつも心に留めておきたいものです。

郷土の文化財

問合先 生涯学習課文化財係 (☎ 22-1262)

遺跡余話 古墳時代 伊万里湾の攻防 その2

伊万里の古墳と伊万里湾をめぐる攻防についての続きです。伊万里で一番古い古墳の空路寺古墳が造られてから約40～50年の間を置いて東山代町日尾の海岸近くに夏崎古墳が造られました。この古墳も数奇な運命をたどります。明治時代の記録では「江戸時代に干拓用の埋め立て土を取っていたときに、大きな平石がでてきた。それを大勢で開いたところ武器（甲冑）があった。これをあばいた人は種々の病を発病した。このため当時の大庄屋である多久島家で、この甲冑を奉り丸熊八幡宮とした。」とされており、現在でも古墳のそばに「八幡宮」「宝暦六年」（1756）銘の石祠があります。

江戸時代以降、この古墳は盛土が取られ、石室が露出した状態のままでした。昭和46年（1971）に調査が行われ、築造当時は墳丘の高さは約5m、直径24mのかなり大規模な円墳だったと推定しています。この時の調査では、以前に甲冑の出土があったことは知られていましたが、既に無くなったと思われていました。ところが…。

夏崎古墳についての話は次回に続きます。



調査当時の夏崎古墳